

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号	43
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。
----------	---

2 評価する領域・分野	◇ 教務
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い」「先生方の専門知識が豊富で授業内容に満足ができる」「授業の教え方や説明がわかりやすい」については、昨年度よりもプラス評価を下げているか同評価である。生徒の実態にあわせた授業ができていないか検証し、授業改善への取り組みが急務の課題である。この項目については昨年度も同様な反省があり改善がみられていない。猛省が必要である。 ・評価については各教科が実施している評価に対しては、評価基準や評価方法についての再検討や説明不足を感じる。 ・一部で実施されている習熟度授業や少人数授業について全体としての認知度は多くない。多様な生徒や、幅広い学力差がみられる生徒に対応するため習熟度授業や少人数授業を拡充する必要を感じる。またこの形態を最大限に生かした効果が現れているか検証が必要である。 ・「本校は、通信やホームページ等を用いて・・・情報を速やかに伝えている」の項目については昨年度比生徒は-14%である。HPの速やかな更新が必要である。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	生徒一人一人に存在感・達成感をもたせる授業内容及び評価方法の研究と実践
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・カリキュラム委員会を中心に「存在感・達成感をもたせる授業」「わかる授業」をテーマとした校内研修および「評価方法」の更なる検討を、学年会や教科会との連携のもと、企画委員会、職員会で周知徹底をはかり実施していく。

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
<ul style="list-style-type: none"> (1) 公開授業・研究授業及び教科研究会の実施 (2) 授業評価アンケートの実施 (3) 生徒の進路希望を考慮したカリキュラム作成 (4) 少人数授業・習熟度授業の実施 (5) 評価方法の研究 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒による授業評価および授業に関するアンケート (2) 日々の自宅学習記録用紙への記入及び月一度の統一自宅学習時間調査結果 (3) 単位未修得者数、定期考査、対外模試での成績評価

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期2回に公開授業週間を実施。期間内に研究授業・教科研究会を実施 ・全教科において前期終了時に授業評価の実施 ・自宅学習時間3時間以上を目標として授業内容、課題を設定 ・新しい学習指導要領による新しい学力観を基に生徒が自らの現状把握とその克服を促すための新しい評価方法を設定し、その評価方法により生徒の単位全修得を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科内で活発に授業参観が実施され、研究授業後の教科研究会が有意義なものとして実施されたのか ②授業評価結果が授業改善へと生かされているのか ③自宅学習時間が目標の3時間を超えたか ④単位未修得者数 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p> <p>A (B) C D</p>

11 成果・課題	<p>◎重点目標「存在感・達成感をもたせる授業」を実現するための1つ手段として「言語活動の充実」を取り上げ、各教科にその工夫方法を検討し、研究授業での実践を依頼した。徹底させることができなかったが、各教科「わかる授業」を展開する中での「言語活動の充実」が自然と図られており、意図的なものは必要ないかもしれないと感じた。特に数学科にあっては県の授業改善委員会の研究授業の中で「生徒に興味・関心を持たせる工夫ある授業」をテーマとした研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●上記において教科により内容の密度に偏りがあった。 ○マークシートを使用した全職員の担当2クラスにおける生徒による授業評価を実施。各教員の反省・点検にも繋がった。 ●自宅学習時間調査が3時間を超えるのは定期考査前のみであり、平常時に超えていない。日常での学習課題の与え方を検討する必要がある。 ○昨年度より学習指導要領に則った本校としての統一の評価基準とした点は成果といえる。しかし未だ各教科で詳細な評価基準についてはあいまいなところもあり、今後は、如何に生徒・保護者に適切に伝えられるか(説明責任)検討の必要がある。 	総合評価 A (B) C D
----------	---	-------------------

12 来年度に向けての改善方策案

・学力差も近年は広がっており、多様な生徒に対応するため「わかる授業」「学力が伸びる授業」の研究を徹底的に行いたい。また各教科の評価基準の明確化をし、説明責任がきちんと果たせるようにしたい。最後はHPを最新のホームに刷新したい。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成26年2月18日

・最近の子供はコミュニケーションがうまくとれない等の意見をいただいた。やはり周りの状況を考えて行動することや、自分の意見を明確に論理的に主張できる「言語活動の充実」等の大切さを痛感した。また自然科学コースの発表について、“着眼点や発想が面白い”等の意見をいただいた。今後も生徒の豊かな発想が活かせる授業や、活動を研究していきたい。

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号 43

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン 「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶日本一多治高生」		
2 評価する領域・分野	◇進路指導部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「開かれた進路指導」を目標にした取り組みが一定の評価をいただいたものと判断する。 ・生徒からの評価に前年度比マイナス項目が多かったことについては、①現行の指導体制が生徒に合わなくなっていて生徒たちの主体的な取り組みを促すに至っていない、②教員の異動にともなう指導の継続性がうまく機能していないなどの要因が考えられる。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇目標明確化と評価過程充実を図り、指導内容・方法の充実に努める。 ◇「開かれた進路指導」を推進する。 ◇キャリア教育を推進して、安売りしない、諦めさせない指導と援助に努める。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部会での情報交換、協議をもとにした進路指導の推進。 ・職員会議等会議での情報提供・収集と職員研修会の実施。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 綿密なデータ分析による研修・検討会実施 (2) 授業・補習等を通じた入試多様化への対応 (3) 情報発信の充実と外部環境活用拡大の推進 (4) 進路選択のための情報入手と検証機会充実 (5) 変化・現状に柔軟に対応した指導体制創造	(1) 模試、入試での生徒成績を分析する。 (2) 授業評価、補習の参加状況を分析する。 (3) 各種行事の参加状況やアンケートを分析する。 (4) 総合的な学習の時間、HRの評価を分析する。 (5) 個々の取り組みの検証・見直しを判断する。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・進路説明会（生徒、保護者向け）実施。 ・模試の効果的活用（職員研修会、入試検討会）。 ・「さか草」HP公開、多治見高校サポーター制。 ・校内行事の拡充と外部行事への積極的参加。 ・補習、内規、推薦基準等の見直し。	①学校の進路の数値目標達成 ②生徒・保護者の評価結果 ③生徒の実態に応じた事業推進	A B C D A B C D A B C D	
11 成果・課題	○新規事業立ち上げや事業見直しを継続し一定の成果をあげた。 （多治見高校サポーター制、指導メニュー多様化、志望校検討会議 など） ○「開かれた進路指導」は従来よりも拡充し生徒や保護者の評価も良好であった。 ○「安売りしない、諦めさせない指導と援助」は一進一退の中で漸進状況。 ▲模試成績や入試結果から判断すると一人一人の能力を伸ばしきれてない。 ▲総合的な学習の時間の縮小で「キャリア教育」推進の後退が危惧される。		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案	・学校全体の改革に並行して、生徒や入試の実態把握に基づいて柔軟に事業の継承と見直しを行う。 ・総合的な学習の時間の内容・方法の充実を図り、LHRやサタスタと連携しキャリア教育を推進する。 ・外部の支援環境（多治見高校サポーター制、育友会との協同）の活用についてシステムの確立を図る。 ・外部の業者の選定・協議を充実し、より適切な進路行事の開催と外部の進路イベント参加を実施する。 ・補習の実施と課題の活用を工夫し、効果的・計画的な進路指導を目指す。 ・進路データの分析をもとにして、生徒の実態に合わせた進路計画の見直しを実施する。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成26年2月18日

【意見・要望・評価等】 ・大学合格だけに限定することなく、上級学校進学後及び卒業後のことにまで配慮されている点については評価できる。特に、就職難やキャリア教育が問題となっている昨今、大切な視点である。 ・卒業生を活用して後輩の指導や援助をすることという点は評価できる。在校生にとって具体的な目標ができるし、将来自分も母校に貢献したいという気持ちを持たせることができるのではないかと。 ・生徒の実態に合わせた指導方法の改善については、これからも柔軟に取り組んでほしい。生徒一人一人がやる気をもって主体的に取り組むことができるように期待する。
--

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号 43

I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。</p> <p>スローガン 「一人一人の文武両立」 「さわやか挨拶日本一 多治高生」</p>			
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇生徒指導</p>			
<p>3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート全体で、肯定的な意見が保護者よりも生徒の方が低いので、生徒への伝え方を工夫する必要がある。 ・「体罰がない」に対して否定的な回答が13%あり、生徒に調査を実施したが把握できなかった。 			
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>◇自律できる強い心を育て、基本的な生活習慣とマナーを確立させる。 具体的指導項目：遅刻、身だしなみ、挨拶、携帯電話、交通安全、倫理観、規範意識。</p>			
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や委員会を通して、情報と指導方針の共通理解を図る ・生徒指導部のリーダーシップ、学年会・他分掌との連携 ・生徒会、MSリーダーズ等の生徒による取り組み 			
<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>			
<p>①「身だしなみ確認週間」の設定と毎日の登下校指導、生徒会とのあいさつ運動の実施。 ②各種講話、学年・全校集会等での指導。 ③ひびきあいの日の人権LHRの取り組み。</p>	<p>①本校職員の評価（会議やアンケート等）。 ②外部会議や、育友会会議などで意見や評価。 ③生徒と職員の評価。</p>			
<p>8 取組状況・実践内容等</p>	<p>9 評価視点</p>	<p>10 評価</p>		
<p>①月に一週間の「身だしなみ確認週間」を設定し、生徒とともにあいさつ運動を実施。 ②携帯電話と遅刻指導は、事前指導・事後指導ともしっかりと取り組めた。 ③講話、集会、登下校指導等での交通安全指導。 ④ひびきあいの日の全校統一人権LHRの実施。</p>	<p>①生徒の自律した身だしなみ。職員の統一した指導。 ②校内での携帯指導の数と内容と遅刻統計の比較。 ③事故の件数と内容の統計。 ④生徒、職員の意見・評価。</p>	<p>A B <input checked="" type="radio"/> C D <input checked="" type="radio"/> A B C D A B C <input checked="" type="radio"/> D A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>		
<p>11 成果・課題</p>	<p>○身だしなみは、新制服が2学年に増え、自律して着こなせる生徒が増えた。 ○男子の髪は、明確な規準を示し指導できた。 ○携帯電話のマナー指導に重点を置いて取り組みその成果も十分に表れた。 ○遅刻は、朝読書の開始と事後指導を充実させたことで大幅に減少できた。 1月時点で、昨年比204名減（-25%） ○大きな問題行動がなく、落ち着いた雰囲気の中で学校生活が送れている。 ●身だしなみ指導に関しては、職員の間で統一した指導ができていないので教育活動の全てが生徒指導であるという意識を高める必要がある。 ●問題行動では、小テストや考査等での不正が多く、生徒の規範意識を高めるとともに職員の指導力の向上が課題である。 ●自転車交通事故が増加した。昨年度（12件）→今年度（22件）</p>		<p>総合評価 A B <input checked="" type="radio"/> C D</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案 ○本校生徒は、身だしなみの指導には素直に応じてくれる。生徒の自律心に頼る指導には限界があり、全職員が生徒の自律心を支え、育てられるよう組むことが不可欠と考えます。来年度は、生徒指導の大切さを理解し、使命感を向上させることができるような職員研修を計画、実施したい。</p>				

○アンケートから、生徒指導に関することが生徒には充分伝わっていないことがわかるので、一人一人の生徒が、高校で身に付けるべき力を理解して各自の目標に取り組めるよう、あらゆる機会をとって学校教育の意義と目的を伝え、自律心や倫理観、規範意識を養いたい。

○生徒が主体となった自転車通学生に対する交通安全指導。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成26年2月18日

○身だしなみ指導、交通安全指導を引き続き重点として取り組んで欲しい。

○保護者へのアピール不足という点に関しては、学校に任せきりになってしまっている保護者側にも課題があるのではないか。

○交通安全意識を高めて命を守る行動ができるよう指導して欲しい。

○考査での不正行為がおきないよう規範意識を高める指導をお願いしたい。

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号 43

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン 「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶日本一多治高生」		
2 評価する領域・分野	◇保健厚生		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・大きな災害・危機がないためか、生徒の安全に対する意識が希薄になっていると思われる。 ・必要に応じてメール配信を行い、保護者への連絡・協力を得られているが、なお一層の理解・協力が必要である。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇個々の生徒が自分の健康に関心を持ち、自己管理できる能力を育成する。 ◇命を守る訓練、救急救命講習等を通して、事故・災害等の危機管理と健康被害防止の徹底を図り、万全な態勢で備える。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・命を守る訓練の実施方法を工夫し、現実味のある訓練を実施する。 ・全職員・生徒による安全点検を実施し、危険個所の発見と事故災害等の危機管理を徹底する。また必要に応じて、補修を行う。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 命を守る訓練や救急救命講習の実施 (2) 危機管理の徹底と職員間の報告・連絡・相談の充実	(1) 本校職員による評価 (2) 生徒及び保護者の学校アンケートによる評価		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・命を守る訓練の工夫と実施	①訓練時等の様子	A (B) C D	
・定期的な安全点検の実施と職員間の報告等	②安全点検の報告・巡回	A (B) C D	
・救急救命講習の実施	③消防署職員の講評	(A) B C D	
11 成果・課題	○緊急地震速報時の音源を利用した訓練、メール配信にて生徒個々の安否確認をする訓練と、命を守る訓練を工夫して実施した。 ○1年生全員、部活動対象者に救急救命講習を実施し、緊急時に対応できるよう指導することができた。 ▲大雨で早帰りさせた際の生徒たちの行動をみると、起こりうる災害や危険、それにもなう交通機関の寸断など、最悪を想定させた危機意識の定着が必要である。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	大雨警報で生徒を早帰りさせたが、まっすぐ帰らず中央線・太多線の運行見合わせによって、何時間も駅で待機する生徒、車の迎えを待つ生徒が多くみられた。気象警報の対応が変更になり、あらゆる警報においても生徒が安全に登校、下校、学習ができるように職員、生徒とも周知徹底を図りたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成26年2月18日

【意見・要望・評価等】 ・最悪の事態を想定して、職員・生徒の安全意識の向上と徹底をより一層充実したい。 ・気象警報の対応が変更になり、校内の規約を変更したが、細かい対応について理解しやすいように防災マニュアルの改善を図っていきたい。 ・一号館校舎の改装工事が終わり、外壁、廊下、階段、トイレ等がきれいになったが、きれいな状態を保てるよう、職員・生徒の美化意識を高めていきたい。

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校 学校番号

高等学校

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン：「一人一人の文武両立」、「さわやか挨拶日本一多治見生」	
2 評価する領域・分野	◇特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・部活動・ボランティアに関する項目について、保護者で前年比-6%、生徒にいたっては-15%と前年を大きく下回っている。部活動の活性化について、生徒に満足感を持たせる指導と、保護者には各顧問で活動報告や結果を知らせるなど活動に関心を持ってもらえるような取り組みが必要である。 ・講演会や体験学習など、授業以外の学習機会の設定について、満足度が保護者で+3%上昇、生徒では-3%減少している。講演会を実施するなど、効果的に実施し、生徒のスキルアップの一助としたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人一人が積極的に活動に参加し、成功体験を持つことで達成感を味わい自己実現を図る。 ◇決まりを守り、仲間と切磋琢磨しあいながら礼節を大切に、「文武両立」ができる生徒の育成をめざす。 ◇ホームルーム活動の活性化を促し、生徒の自治力の育成を図る。 ◇自己の成長とともに、他人を思いやる心を養う。 ◇生徒、保護者、地域に多治見高等学校をアピールするための基盤づくりを行う	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・特活部会での協議を通して、教員間の意思疎通を図り協力しながら取り組む。 ・部活動・委員会活動の活性化のため、他の分掌や学年、教科との連携を図り、協力体制を充実させる。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)学校行事を通して帰属意識を養い、成就感や達成感を体験させ、本校生徒としての誇りと自信を持つことで豊かな人間性を養う。〈部活動・学校行事の活性化〉 (2)集団や社会の一員として、望ましい人間関係を構築し、協調性や責任感、公共心を養う。〈規範意識や基本的生活習慣の向上〉 (3)生徒会・委員会等の活動を通して、協力して問題を解決できる実践的な能力を養う。〈自ら考え主体的に活動する行動力の育成〉	(1)・各行事後のアンケート結果を分析する。 ・部活動の成績、加入状況および活動状況を調査する。 (2)・HR活動に取り組む様子を観察し、担任により協調性や団結力の高まりを評価する。 ・部活動への参加状況と成績を集約する。 ・ボランティア活動への参加状況を把握する。 (3)・生徒が積極的・主体的に行事や個々の活動に参加し、計画性を持って取り組むことができていたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・生徒会を中心とする学校行事の企画・運営 ・あいさつ運動の展開 ・「Have a Dream for 100」Project講演会の開催 ・部活動加入状況・活動状況調査による状況把握 ・休日・平日の部活動における方向性の提示	①行事ごとのアンケート ②委員会の活動実績 ③部活動の加入・活動状況 ④LHRの充実感 ⑤充実した学校行事	A B C D A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	○学校行事の満足度（とても充実・まあまあ充実）は スポーツ交流大会 93.9%、桔梗祭 97.6%、球技大会 95.1%で多くの生徒が、満足している結果となった。また、クラスの団結が高まったと答える生徒も9割を超えている。スポーツ交流大会・文化祭・各LHRにおいて、生徒一人一人が輝くことができる場を造ることができたと考えている。 ○一流講師の講演を聴くことで、自分自身を見つめ直し、将来への夢を持ち、生き方を	
	総合評価 A B C D	

	<p>考える機会になればと考案講演会を実施した。生徒の感想からこの講演が、生徒にとって社会や自分自身のあり方、生き方について思いを新たにすよい機会となったことが窺える。</p> <p>○あいさつ運動など生徒会が主体的に動き活動することができた。また、委員会においても、清掃美化委員会による清掃の啓蒙放送、放送委員会の昼休みの放送等、積極的に活動する姿が見られた。</p> <p>▲委員会活動では、生徒自身による積極的な活動やホームルームでの委員の活躍があまりできなかった</p> <p>▲部活動の活性化という面では、まだまだ不十分である。結果につなげられる努力が必要である。</p>	
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動、委員会活動の活性化を図り、それぞれの取り組みを深めていく手立てを考えて行く必要がある。 ・学校行事や部活動の結果など、多治見高校の活躍をホームページや生徒会新聞などを通して、家庭や地域に広く発信し知っていただく必要がある。 ・多治見高校の特色を活かし、他校との差別化を図り、魅力ある学校づくりを生徒会を中心に行っていきたい。 <p>。「Have a Dream for 100」Projectを浸透させ、多治高生としての自信と誇りを持たせたい。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成26年2月18日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が将来への夢を持ち、生き方を考える機会となり、生徒のスキルアップにつながる講演会は、今後も継続して開催していけるとよいと思います。 ・スポーツ交流大会や文化祭に我が子も楽しんで参加していて、個人のよさが引き出され、一人一人が活躍する場面が造られていてよかった。 ・「さわやかあいさつ日本一 多治高生」「一人一人の文武両立」のスローガンに基づいた活動を展開されているが、保護者や地域にむけて、もう少しアピールできるとよい。
